

司式:土屋 昌子
奏楽:橋本恵美子

前奏:「主よ、憐れみ給え」(F. ケーラン)

招詞:真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる。(ヨハ16:13a)

讃美歌 425:「にすずめも、くじらも」

罪の告白・赦し 聖霊を求める祈り

朗読聖書①イザヤ書 43. 1-7

- 01 ヤコブよ、あなたを創造された主は/イスラエルよ、あなたを造られた主は/今、こう言われる。恐れるな、わたしはあなたを贖う。あなたはわたしのもの。わたしはあなたの名を呼ぶ。
- 02 水の中を通るときも、わたしはあなたと共にいる。大河の中を通っても、あなたは押し流されない。火の中を歩いても、焼かれず/炎はあなたに燃えつかない。
- 03 わたしは主、あなたの神/イスラエルの聖なる神、あなたの救い主。わたしはエジプトをあなたの身代金とし/クシュとセバをあなたの代償とする。
- 04 わたしの目にあなたは価高く、貴く/わたしはあなたを愛し/あなたの身代わりとして人を与え/国々をあなたの魂の代わりとする。
- 05 恐れるな、わたしはあなたと共にいる。わたしは東からあなたの子孫を連れ帰り/西からあなたを集める。
- 06 北に向かっては、行かせよ、と/南に向かっては、引き止めるな、と言う。わたしの息子たちを遠くから/娘たちを地の果てから連れ帰れ、と言う。
- 07 彼らは皆、わたしの名によって呼ばれる者。わたしの栄光のために創造し/形づくり、完成した者。

朗読聖書②マタイによる福音書 10. 26-33

◆恐るべき者

- 26 「人々を恐れてはならない。覆われているもので現されないものはなく、隠されているもので知られずに済むものはないからである。
- 27 わたしが暗闇であなたがたに言うことを、明るみで言いなさい。耳打ちされたことを、屋根の上で言い広めなさい。
- 28 体は殺しても、魂を殺すことのできない子どもを恐れるな。むしろ、魂も体も地獄で滅ぼすことのできる方を恐れなさい。
- 29 二羽の雀が一アサリオンで売られているではないか。だが、その一羽さえ、あなたがたの父のお許しがなければ、地に落ちることはない。
- 30 あなたがたの髪の毛までも一本残らず数えられている。
- 31 だから、恐れるな。あなたがたは、たくさんの雀よりもはるかにまさっている。」

◆イエスの仲間であると言い表す

- 32 「だから、だれでも人々の前で自分をわたしの仲間であると言い表す者は、わたしも天の父の前で、その人をわたしの仲間であると言い表す。
- 33 しかし、人々の前でわたしを知らないと言う者は、わたしも天の父の前で、その人を知らないと言う。」

祈禱

愛と恵みに富み給う私たちの主、イエス・キリストの頭でおられる神さま、今朝、私ども一人一人の名を呼び、御堂に、またライブ配信による礼拝に招いてくださり、礼拝をお献げする恵みをお与えくださいましたことを感謝いたします。

過ぐる一週間、私たちは一人一人御言葉を携えて世に遣わされ、世にあって

各々の務めを果たす中で、祈ること浅く、聖霊の御力を忘れ、疲れ、眩き、自らを顧みることなく眠り、他者への配慮に欠け、時を過ごしていたことを御前に懺悔いたします。どうぞこのような私たちを再びあなたの御言葉によって清め、新しく生きるものとなさしめてください。

神さま、過ぐる5月最後の日曜日、定期教会総会を滞りなく終えることができましたことを心から感謝いたします。多くの労を取ってくださった佃牧師をはじめ、長老の一人一人の働きをあなたが労ってください。私たちが総会で聞いたこと、見たこと、話し合われたことを生かし、今年度の歩みを確かなものとすることができますようにお導きください。

神さま、今朝は教会創立103周年目の主日を迎えられたことを感謝いたします。100周年記念事業も実りの時を迎えようとしています。準備してまいりました出版を柱とする事業に、私たち一人一人が力を寄せ合い、形をなしていく幸いを共にすることができました。2024年6月よりこれまでの歩みを振り返り、深く感謝申し上げます。時に私たちの力に余るかと思われるような事柄もありましたが、祈りつつ進められ歩んでまいりました。一つ一つが教会の業としてあなたからの祝福をいただくものとなりますように祈ります。与えられる疑問や新たな視点を共に分かち合い、これからの伝道の業に、歩みの上に生かしていくことができますよう、励まし導いてください。

長い歴史を負う教会として課題は多く、私たちはますます愛と連帯性を持って励まし合い、礼拝を大切に、御旨に適った教会を立てていかなければなりません。この時代にあって、戦争・紛争の苦しみの中にある者、病や老いの悲しみのうちにある者、寄留の人々と共に、あなたの御名と共に生きる者とさせてください。

神さま、今朝、御言葉を取り次ぐ佃牧師を豊かに聖霊で満たし、大胆に御言葉を語ることができるようお導きください。聞く私ども一同が創立記念日の礼拝として、これを謙って聞き、一人一人、この日を深く覚えて、主の教会を立てる者としての自覚に導いてください。遠くから、また新しく肢とされ、新たに教会の礼拝に加わる者、また教会員の家族、多くの者をこの礼拝に導いてくださいましたことを心から感謝申し上げます。

この礼拝を覚えつつ、時を同じくすることのできない者の上にもあなたの豊かな恵みがありますように。言い尽くし得ません感謝と願いとを尊き主イエス・キリストの聖名によって御前にお献げいたします。アーメン。

合唱:「Benedictus」聖歌隊

一主の御名によりて 来る方に祝福あれいと高きところにはホサナー

説教「恐れるな」

佃 雅之

神は今朝の私たちに「恐れるな」と繰り返し語っておられます。私たちは何を恐れているのでしょうか？

朗読された福音書の御言葉は、キリストが12人の弟子たちを伝道へとお遣わしになる時に語られたものです。弟子たちがこれから向かっていく道は、厳しい現実を伴うものでした。福音を宣べ伝えるがゆえに、キリストの弟子であるがゆえに、人々から誤解されることがあります。「あなたたちは間違っている」と言われ、「危険な教えを広めている」と反対され、憎まれ、時には迫害されることさえあります。これは2000年前の弟子たちだけの話ではありません。今の教会の姿でもあり、私たちの歩みでもあります。

私たちも礼拝のたびごとに御言葉を聞き、祝福を受けて、それぞれの生活の場へと遣わされていきます。そしてその日々の歩みの中で、キリストが弟子たち

に言われたこの世での現実を、身をもって味わいます。信仰生活を理解しても
らず、キリスト者として生きることの難しさを覚えることがあります。自分の力
ではどうにもならない現実と直面することもあります。人の評価を恐れ、傷つく
ことを恐れ、失敗を恐れ、失うことを恐れる、明日のことを恐れ、そして死をも恐
れるのです。私たちはいつも何かを恐れながら生きているのではないでしょう
か。だからこそキリストは「恐れるな」と語られるのです。なぜ恐れなくて良いのか、
その確かな理由が示されています。「覆われているもので現れないものはなく、隠
されているもので知られず済むものはないからである。」「神の真理は決して闇の中に閉
じ込められることはない、最後には神が明らかにしてくださる」というのです。

この世には多くの誤解や中傷があります。真実が覆い隠され、偽りのほうが
人々の心を支配してしまうことさえあります。しかし主は、そのような人々の評価
を「恐れるな」と言われるのです。なぜなら、人間の判断は一時的なものであ
って、最終的なものではないからです。人間の評価に振り回される必要はありません。
神だけが真実をご存知です。

弟子たちは、すでにこの方こそ神から遣わされた救い主であることを知らされ
ていました。しかし世の人々には、まだその真実が見えていません。今は理解さ
れなくても誤解されても、やがて神ご自身がイエスこそ救い主であることを明ら
かにされます。弟子たちの働きは決して無駄にならないと主は約束しておられる
のです。だからこそ、「わたしが暗闇であなたがに言うことを、明るみで言いなさい。
耳打ちされたことを屋根の上で言い広めなさい。」と言われました。

ここには見落としてはならないことがあります。「語ることに先立って、聞くこと
が求められている」ということです。聖書には「屋根の上で言い広めなさい」と命じら
れる前に、主が「耳打ちされた」と記されています。弟子たちはまず主の御声を聞く
者とされ、その後、語る者として遣わされるのです。私たちの日常には、人の言
葉や評価、様々な要求や情報が絶え間なく押し寄せてきます。そしていつの間
にか主の御声を聞き逃してしまうのです。礼拝は主が私たちに「耳打ち」してくだ
さる時です。主の御言葉を聞く者だけが、人々の前で大胆に語るができるよう
になるのです。

しかし福音を語ることには「恐れ」が伴います。人々の反対を恐れ、誤解される
ことを恐れ、拒まれることを恐れます。だから主はこう語られるのです。「体は殺し
ても、魂を殺すことのできない者どもを恐れるな。」迫害する者たちは、弟子たちの肉
体を傷つけることはできます。深い苦しみを与えることもできます。人は私たち
から多くのものを奪うことができます。命を奪うことさえできるでしょう。しかし彼
らに魂を殺すことまではできないのです。ここで言われている「魂」とは、心や精
神にとどまらず、神との関係の中に生きる真の命、神が与え、神だけが取り去る
ことのできる命そのものを指しています。この命は人間の手の届かない、神の御
手に守られた命です。どれほど強い権力を持つ者であっても、どれほど激しい
迫害者であっても、魂を滅ぼすことはできないのです。だから「人間を恐れるの
ではなく、神を恐れなさい」と言われています。私たちが恐れるべきものは、迫害者
の力ではなく、世の評価でもなく、死ですらない。真に恐れるべきお方は、魂の
主であり、命を支配しておられる神お一人です。

今日、福音書と共に読まれたイザヤ書の冒頭に、「あなたを創造された主は、“あ
なたを造られた主は”」と宣言されている通り、私たちの命は神によって造られ、神
によって支えられている命です。この預言が語られた時、イスラエルの民はバビ
ロン捕囚という長く暗い苦しみの中に置かれていました。人々は疲れ、希望を失
い、絶望の中にありました。もはや人間の努力や決意ではどうすることもできな
い状況だったのです。

2 節に「水の中を通るときも」、「大河の中を通っても」、「火の中を歩いても」とありま
す。苦難は過ぎ去っていません。神が「恐れるな」と語られた時、神の民は苦しみ
の只中にありました。私たちも本当に苦しい時、深い危機に直面した時、祈る言
葉さえ失ってしまいます。祈ろうとしても祈れない、助けを求めようとしても声に
ならない、自分がどこにいるのか何を求めているのかさえ分からなくなってしまう
深い暗闇の中に沈み込んでしまうことがあります。

しかしその時にこそ、神は「恐れるな」と語りかけてくださるのです。神はまず
「わたしはあなたを贖う」と言われます。「贖う」と訳されていますが、神が語ってお
られるのは「贖った」、既に与えられた救いの確かさです。神は「これから救う」で
はなく、「すでにあなたを救い出した」と宣言しておられます。「あなたはわたしのもの」
だから、「あなたはわたしの目に値高く、貴い存在だから」、「わたしはあなたを愛してい
るから」、「わたしはあなたと共にいる」、だから、「恐れるな」と語りかけてくださ
っています。さらに 7 節で神は言われます。

「彼らは皆、わたしの名によって呼ばれる者。わたしの栄光のために創造し、形づくり、
完成した者」。つまり、私たちは一人一人が神の作品なのです。私たちは自分の
思いのままに生きるために造られたものではありません。神は私たちを、ご自分の
栄光を表す者として創造されました。そして、ご自分との交わりに生きる者として、
一人一人の名を呼んでくださるのです。

今日の福音書の箇所のお言葉は、このイザヤの預言を背景にしています。キリ
ストはこの神の愛の確かさを、「雀」と「髪の毛」の喩えを用いて示されています。雀
は「二羽でアサリオン」で売られていました。「アサリオン」は最も小さな貨幣単位
の一つです。雀は市場で売られている鳥の中で、最も値のつかない鳥でした。
人々から見れば小さな命です。しかしキリストは言われます。「その一羽の雀でさえ、
あなたの方のお許しがなければ、地に落ちることはない。」人々から価値を認められ
ない小さな雀であっても、その命は神の御手の中にあり、神の守りのうちに置か
れているのです。「髪の毛」の喩えも同じことを示しています。「あなたのことは全て
知っている。あなたの髪の毛も一本残らず数えている。あなたの思いも涙も弱さも歩みも
全て心にかけている。」あなたの命は誰のものでもない、あなたの父なる神のもの
なのです。キリストは父なる神の確かな支配の中に弟子たちを置きながら、「だか
ら恐れるな」と語られたのです。

聖書は神のご支配を『神の国』と呼びます。今日の礼拝は創立記念日を覚え
て献げています。信濃町教会の献堂式の礼拝において、初代牧師である高倉
徳太郎牧師が取り次がれた説教は、この『神の国』を主題とするものでした。献
堂式の日、高倉牧師が見つめていたのは、教会の人間的な成功ではありません
でした。この地に『神の国』が現実となることでした。

『神の国』は人間の努力によって次第に実現していくものだと、聖書は決して教
えていない。『神の国』はただ神の力により、神の恵みとして必ず与えられることを
言っている。父なる神によって罪赦され、聖霊によって清められ、礼拝の生活に徹す
るところに『神の国』は存在する。聖霊の働く教会の信仰生活は礼拝によって貫か
れている。主の教会は、己に託されている十字架の言葉を、神無くキリスト無きこの
世に妥協せずして与えていかなくてはならない。時を得るも得ざるも、伝道すること
は教会の最大の光栄であり使命である。

そしてこの説教は次の言葉で結ばれています。

恐れるな、小さな群れよ。

主と共におられるならば、小さな群れであることを恐れる必要はないのです。
むしろ問われていることは、「この群れが主の御言葉に生きているのか」、「この群れが
神の国の恵みの支配の中に立ち続けているのか」ということです。

弟子の道とは、恐れがなくなるのではなく、恐れの中でなお主を信頼して歩むことです。イザヤの言葉にあったように、神の支配の中に生きるとは、苦しみや災がなくなることはありません。キリストもまた、弟子たちが誤解されることも、捕らえられることも、時には迫害され命を失うことさえご存知でした。それでも「恐れるな」と言われたのです。なぜなら、私たち信仰者の出会いの出来事は、全て神のご支配の中で起こっているからです。私たちには理解できない出来事があります。「なぜこんなことが起こるのか」と問わずにはいられない苦しみもあります。しかし「信仰とは、全てを理解できない時にも、神が決して私たちを見放さず、その命を御手の中で守ってくださることに心を向けて歩むこと」です。

今日の箇所の最後でキリストは問いかけておられています。

“あなた方は人々の前で、自分をわたしの仲間であると言い表すのか。それとも「私は知らない」と退けるのか？”

主は私たちに、人々の前で“私はイエス・キリストの弟子です。私はこの方に従います”と言い表すことを求めておられます。しかし、主は弟子たちの心に恐れがあることをご存知です。だからこそ、この求めをお与えになると同時に、彼らを支える深い慰めの約束を与えてくださるのです。「わたしも天の父の前で、その人をわたしの仲間であると言い表す。」主は、たとえ地上であなたを受け入れる者がいなくても、“あなたはわたしのものだ”と言ってくださいます。

私たちもまた人を恐れるのではなく、御手のうちに守ってくださる父なる神を信頼して歩みたいのです。「恐れるな」と繰り返し語ってくださる主に信頼して、私たちが聞いた福音を言葉と行いを通して証する者であり続けたいと願います。キリストが弟子たちに語られた「恐れるな」、そして預言者イザヤがイスラエルの民に向けて告げた「恐れるな」、そして高倉牧師が継がれた「恐れるな」、この三つの「恐れるな」は、時代を超えて教会の歩みを支えてきた神の声そのものです。そして今も同じ神の音が響いています。

「恐れるな、わたしはあなたを贖う。あなたはわたしのもの。わたしはあなたを愛している。わたしはあなたと共にいる。」

お祈りをいたします。

聖なる神、御言葉を感謝いたします。私たちは日々、多くの恐れの中を生きています。そして時には自分の力ではどうにもならない現実の前に立ち尽くし、祈る言葉さえ失ってしまうことがあります。しかしそのような私たちに、あなたは今日も御言葉をもって確かな約束を語ってくださいました。私たちが自分の弱さを見るのではなく、あなたを見上げることができますように。そして私たちがこれからも主イエス・キリストに属する者として歩むことができますように。主よ、創立記念日を迎えたこの信濃町教会を、あなたのご支配の下に置いてください。ここに神の国が現実となり、あなたの恵みの光の中を歩む共同体として整えられていきますように、聖霊が導いてください。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

讃美歌:467「われらを導く」

聖晚餐 信仰告白(使徒信条) 和解の挨拶

讃美歌:78「わが主よ、ここに集い」

献金・感謝(堀口恵美)・主の祈り

聖なる父なる御神さま、聖名を崇め賛美いたします。6月第一の聖日、創立記念のこの礼拝に、私たちを、全てを整えてここに集い、御牧師の御言葉に耳を傾け、そして“あなたを信頼し歩むように”という強い御言葉をいただきましたこと、

心から感謝申し上げます。そしてまた今、聖餐の恵みに与り、あなたの十字架を思い起こし、これからの歩みを進めるようにと促されております。

私たちは様々な物を与えられ、今ここに感謝と献身の徴としてお獻げいたしました。どうぞ清めて教会の御用のためにお使いください。今ここに「主の祈り」を皆と共に祈り、これからの一週間もこの御言葉を携えて、強く雄々しく歩むことのできる者とさせてください。「主の祈り」…アーメン。

讃美歌:91「神の恵みゆたかに受け」

派遣と祝福<司式:主は言われます。「私は誰を遣わすべきか。 会衆:私がここにおります。私を、お遣わし下さい。司式:「父が私をお遣わしになったように、私もあなた方を遣わす」と主は言われる。キリストの平和の使者として行きなさい。>

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同と共にあるように。アーメン。

報告:教会学校:次週「花の日・子どもの日」献金の要請。事務:「ゆうメール」便取扱い規定遵守のお願い。月報:発行1週間遅延の連絡。

後奏:「神に感謝せん」(F.クーラン)